



神奈川県

# アセスメントハンドブック ー評価の手引きー

資料編

平成 19 年 3 月

神奈川県立総合教育センター



## はじめに

特別に配慮された場で行う教育「特殊教育」から、場を固定するのではなく、個々のニーズに応じた教育が行われることをめざした「特別支援教育」への転換が進められています。

平成 17 年 12 月、特別支援教育を推進するための制度の在り方（答申）の中で、文部科学省は、障害の重複化や多様化を踏まえ、障害種にとらわれない学校設置を制度上可能にすること、地域において特別支援教育のセンター的役割を担う学校として「特別支援学校（仮称）」の制度に改めることについて示しました。そして、法律の改正を経て、平成 19 年 4 月 1 日より盲学校、聾学校及び養護学校は特別支援学校になります。特別支援学校は、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、教育上特別の支援を必要とする児童、生徒又は幼児の教育に関し必要な助言又は援助を行うなど、センター的機能を発揮することが求められています。

そのような時代の流れの中、教員に求められているのは、教育者としての高い専門性であり、保護者はもとより、他機関や他職種と適切な連携のもと、児童・生徒個々の教育的ニーズに応じて指導を展開できる力量です。

本冊子は、障害がある生徒の理解をめざし、より詳しい検査や観察を行いたい場合に御活用いただけるよう、「アセスメントハンドブックー評価の手引きー」本編の活用マニュアルとして作成しました。

教員のみなさんが本冊子を活用することで、支援を必要とする児童・生徒への理解が深まり、より適切な指導と支援がおこなわれることを期待します。

平成 19 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 田 邊 克 彦



## 資料編の使い方

- 個々のニーズに応じて、必要な検査を選んでください。
- 総合教育センターのホームページからダウンロードできます。  
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>
- 冊子では、見開き1ページで、各検査について説明してあります。



### 左ページ

- ・ この検査から分かること
- ・ 予想される状況
- ・ 検査の観点
- ・ 標準値
- ・ 作業得点
- ・ 記入欄

### 右ページ

- ・ 準備するもの
- ・ 計測方法
- ・ 教示の仕方

※ 標準値とは、同年齢の高校生の平均値を100%として、本人の結果を比率で示したものです。

## 行動観察と記録をする方へ

### 1. まず、生徒の様子を観察しましょう。

(例) × 教示中に、きよろきよろしていたので、練習を始める前に、もう一度教えなおした。

○ 教示中に、きよろきよろしていたが、教示後の練習に取りかかる様子を見てから、次の対応を考えることにした。

教示や指示に対して、どういう様子が見られたか、それはなぜか、どういう対応をすればどういう改善が期待できるかなど考えるためには、すぐに指示を重ねず、まず教示や指示への対応の様子を見ます。その後に対応してください。

### 2. 生徒の様子を教員の思い込みで捉えないようにしましょう。

(例) × 教示者の話を熱心に聞いていた。

○ 教示者が話をしているときには、教示者に視線が向き、頷くことがあった。

この例にある、「熱心に」と「聞いていた」という記述は、生徒の様子（事実）から読み取れたことである可能性があります。記録をする際には、事実と事実から読み取れたことを区別できるようにしておく必要があります。

### 3. 生徒の様子と同時に、周囲の状況も注意して観察しましょう。

(例) × 窓の外に視線が向いた。

○ 車が通りすぎると、外に視線が向いた。

どういう状況の時に、どういう様子が見られたか把握しておく、その理由につながるヒントが見つかることがあります。

### 4. どうすれば課題に取り組めるかも考えましょう。

(例) × 生徒がボールペンを分解しないで座っていたが、アセスメントなので、何も働きかけずに見ていた。

○ 生徒がボールペンを分解しないで座っていたが、まずは様子を観察し、どうすれば取り組めるか、次の働きかけを考えた。

課題に取り組まない生徒に直面したときに、「検査だから…」とって、何もしないで見ているだけでは、解決策は見えてきません。全ての行動には意味があると捉え、行動の背景にある理由を考えて、どのような指導や支援が必要か考えることもアセスメントの大切なポイントです。

アセスメントの考え方や手順については、「アセスメントハンドブックー評価の手引きー」をご覧ください。

## 教示をする方へ

### 1. 教示を確実に行いましょう。

客観的で信憑性のある指標を得るためには、基本となる教示の仕方が一定であることが大切です。したがって、まずはマニュアルどおりに教示をしましょう。

### 2. 説明の仕方には意味があることを意識しましょう。

集団で検査をする場合には、全体教示と個別教示があります。個別に説明が必要な場合には、次の点に留意して説明すると、生徒理解につながります。ジョブコーチのシステムティック・インストラクション等が参考になります。

#### 【説明の仕方】

- ・ 見せるだけで言葉による説明はなし
- ・ 見せることと言葉による説明の両方
- ・ 動作を伴う具体的な呈示
- ・ 手や身体をガイドして説明

#### 【説明の手段】

音声言語、文字、記号、絵・写真、具体物など

### 3. 事前に準備をしておきましょう。

事前の準備では、次の点を確認すると良いでしょう。

- ・ 教示の仕方
- ・ 検査器具の個数や動きの確認
- ・ 記録表の準備
- ・ 作業場所（机の広さ、部屋の広さと座席配置、机やいすの高さなど）
- ・ 所要時間の目安

アセスメントの考え方や手順については、「アセスメントハンドブックー評価の手引きー」をご覧ください。





# 言語・コミュニケーションに関する検査

この言語検査は、【教育目標を探るための検査】です。大人になった時に家庭や地域で生活していくために必要な【生きる力となるコミュニケーション】について評価します。1回目の指示でできなかった場合、どのように工夫すればできるようになるか、教示を工夫しますが、評価は【支援付き通過】となります。『できる』『できない』で二分するのではなく、量を減らしたらできる、補助があればできることなどをコメントします。

## No.1 【言語理解】 名称・用途・指示

### ◆ この検査からわかること

言葉への注意集中、指示（全体・個別）による理解の違い、本人にわかりやすい指示

### ◆ 予想される状況

言葉に集中できない、一番初めの指示から次の指示へ切り替えができない、上下左右などの概念が育っていない、複文の理解が難しい

### ◆ 検査の観点

名称	・指示された品物を見る・品物を指す・5つの品物の名前を言う
用途	・使い方がわかる・使い方を言える・概念が言える
単文理解	・品物がわかる・置く場所がわかる・動詞がわかる・単文がわかる
複文理解	・品物の数がわかる・品物が全部わかる・置く場所がわかる ・動詞がわかる・前半または後半の文がわかる・複文がわかる

### ◆ 評価表（コメント欄；結果を記録〔1.通過 2.支援付き通過 3.未習得〕）

検査項目	コメント
名称	[ 1・2・3 ]
用途	[ 1・2・3 ]
単文理解	[ 1・2・3 ]
複文理解	[ 1・2・3 ]

### ◆ 指導のポイント

集中できるように生徒の氏名を呼び、「聞いて」と注意を促します。ゆっくり短く具体的に指示をします。言葉より視覚情報を使って指示をします。名詞・動詞などの理解語彙数を増やす学習をします。

検査年月日      年      月      日    氏名 \_\_\_\_\_

## No.1 【言語理解】 名称・用途・指示教示



### ◆ 準備するもの

身近な文具（鉛筆・ハサミ・のり・紙・箱）か日用品（歯ブラシ・スプーン・コップ・タオル・箱）

### ◆ 方法

1回目の指示でできない場合は再度の指示をします。次に1度見本を見せる、1回手をとってやってみるなど、どのような教示によって、遂行できるかをコメントに記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	方法の説明	（品物を並べます）いろいろな品物が並んでいます。これから私が言うことをよく聞いてください。
2	検査開始 名称 用途 単文理解 複文理解	それでははじめます。（できたら次に進みます） （ ）はどれですか。 これは何ですか。[5品] （ ）はどうやって使いますか。 （ ）とはどんなものですか。[5品] (1)ハサミをください。 鉛筆を箱の中に入れてください。 のりを紙の上に置いてください。 (2)ハサミを紙の上に置き、鉛筆を箱の中に入れてください。 鉛筆を紙の上に置き、のりを箱の横に置いてください。 のりを箱の中に入れ、ハサミを紙の下に置いてください。
3	検査終了	この検査はこれで終わりです

※ 身振りで応えられる生徒にも実施。音声言語理解が難しい生徒は、[名称]では、教示者が、静止状態の身振り（歯に人差し指を当てる＝歯ブラシなど）を見せ、生徒に品物を指差しさせるか、品物を取らせませす。[用途]では、品物を並べて、一つずつ教示者が品物の使い方を動作見本で示した後、生徒に他の品物を渡して用途を示せるかを見ます。

### ◆ 所要時間

10分

## No.2 【言語表出】 尋ねる・不足を伝える

◆ この検査からわかること

言語表出の力、社会生活に必要な情報の請求と不足の要求ができるか

◆ 予想される状況

要求せずに自分のやり方で行う、自発的な要求が難しい、  
「ない」等見える状況だけを伝える など

◆ 検査の観点

尋ねる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示されるまで黙っている</li> <li>・やり方を聞かずに困った表情で検査者を見る</li> <li>・やり方を聞かずにシールを貼る</li> <li>・「先生」と呼びかける ・「どうしたらいいですか」と聞く</li> </ul>
不足を伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示されるまで黙っている</li> <li>・やり方を聞かずに困った表情で検査者を見る</li> <li>・「できました」「終わりました」と言う</li> <li>・指で不足の部分を指さす ・「ない」と言う ・「1個ない」と言う</li> <li>・「シールが1枚足りません」と言う</li> </ul>

◆ 評価表

評価表（コメント欄；結果を記録 [1. 通過 2. 支援付き通過 3. 未習得]）

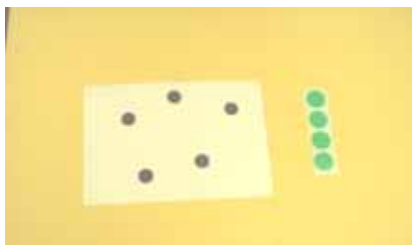
項目	コメント
尋ねる	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]
禁止	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]
不足伝える	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]

◆ 指導のポイント

情報請求や不足の要求ができるように、先生が表情で促したり、文頭を言ったりして、自発的に表現させます。実際の場面でどのように言うかを教えます。本人が困っていることを代弁し覚えさせます。必要なコミュニケーションを書いて覚えさせます。会話サンプルを使います。本人が用いやすい要求方法を考えます。

検査年月日      年      月      日    氏名 \_\_\_\_\_

## No.2 【言語表出】 尋ねる・不足を伝える教示



### ◆ 準備するもの

B 5の白い紙 予め、裏にシールと同じ大きさの黒丸を描いておく  
丸シール 黒丸よりも1枚少ない数を準備する

### ◆ 方法

1回目の指示でできない場合は再度の指示をします。次に1度見本を見せる、1回手をとってやってみるなど、どのような教示によって遂行できるかをコメントに記録します。

### ◆ 教示の手順と方法

	項目	教示内容
1	検査開始	検査を始めます。 (検査者は、印のない紙の面を表にして、シールと一緒に、生徒の前に黙って差し出します。検査者は指示を出さずに、目を伏せ沈黙します。)
2	検査の展開 たずねる  (禁止)  不足を伝える	(1) 検査者は指示を出さずに、生徒から「どうしたらいいですか」など自分から情報の請求ができるかをみます。通過したら(3)に進みます。 (2) 通過できない生徒で、検査者に情報請求せずにシールを貼り始めようとしたら、中止させて「『どうしたらいいですか』と聞いてください」と指示をします。言わせてから(3)へ進みます。 (3) 検査者は画用紙を裏返し、「丸い印の所に、 <u>全部</u> シールを貼ってください」と指示します。 (4) 「シールが1枚足りません」と不足の要求ができるかをみます。言わない時には言うように促します。
3	検査終了	この検査はこれで終わりです。

### ◆ 所要時間

5分

## No.3 【対人関係】 予測・説明・挨拶

- ◆ この検査からわかること  
場面の社会的状況の読み違い、情報の誤った関連付け、  
注意を向けることの難しさ、予測することの難しさ
- ◆ 予想される状況  
敬語が使えない、社会生活のマナーやルールを知らない  
場にそぐわない表現をする、困ると自分のやり方で処理する  
相手の気持ちに気が付きにくい

### ◆ 検査の観点

予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過順に並べない</li> <li>・1枚目を提示すれば正解する</li> <li>・「1番目はどれ」「2番目はどれ」と聞くと正解する</li> <li>・3枚を正しく並べる</li> </ul>
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーがわからない</li> <li>・周囲の人の表情が読めない</li> </ul>
挨拶・返事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶が難しい</li> <li>・挨拶をする</li> <li>・職員への丁寧な挨拶ができる</li> </ul>
状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪い行動を言う</li> <li>・正しい行動を言う</li> <li>・集団のルールがわかる</li> </ul>

### ◆ 評価表（コメント欄；結果を記録〔1.通過 2.支援付き通過 3.未習得〕）

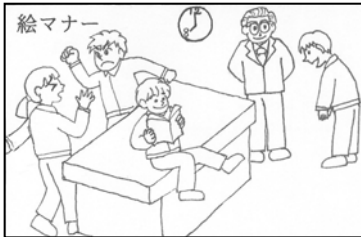
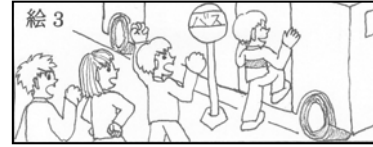
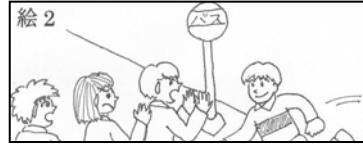
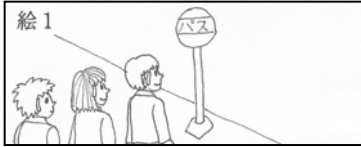
項目	コメント
予測	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]
社会生活	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]
挨拶・返事	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]
状況の説明	[ 1 ・ 2 ・ 3 ]

### ◆ 指導のポイント

絵カードで人の表情や動作に気付かせ、マナーを教えます。絵カードを使って様々な役になり人の気持ちに気付かせます。目上の人への言葉遣いを模擬体験で教えます。

検査年月日      年      月      日    氏名 \_\_\_\_\_

## No.3 【対人関係】 予測・説明・挨拶教示



- ◆ 準備するもの  
社会生活場面の絵（ソーシャルスキル絵カード3枚  
組みとマナー絵1枚）

- ◆ 方法  
1回目の指示でできない場合は、再度指示します。  
言葉が出ない時には、初めの言葉を言い、生徒が続  
けられるようにするなど、どのような教示によって  
遂行できるかをコメントに記録します。

- ◆ 教示の手順と方法 (1)～(6)は上記絵1～3を、(7)～(9)はマナー絵を使用します。

	項目	教示内容
1	方法の説明	これから絵を見て、私の質問に答えてもらいます。 私が言うことをよく聞いて、答えて下さい。
2	検査開始 予測 社会生活 とマナー  挨拶・返事 状況の 説明	それでは始めます。 (1)この3枚の絵を見て下さい。3枚の絵を並べて下さい。 (2)一番始め（2番目、3番目）はどれですか。 (3)まわりの人は、何を言っていると思いますか。 (4)まわりの人は、どんな気持ちですか。 (5)この人は、どうすればいいのですか。 (6)あなたは実習に行きました。先生は職員の役になって話しかけるので、あなたはこの人になって話をして下さい。 「おはよう」の挨拶に対し、「おはようございます」と答えたり、 色々な質問に対し目上に丁寧な言葉が使えるかを見ます。 (8)悪いことをしている人はいますか。 (9)この人は、どうすればいいのですか。
3	検査終了	この検査はこれで終わりです。

※ 言語表出が難しい生徒は、身振りでの応えや、解答絵カードから正解を選択させます。

- ◆ 所要時間

10分





## 運動・操作性に関する検査

## No.4 片足立ち（開眼）

- ◆ この検査からわかること
  - 理解力（左右や求められていることがわかる）
  - 下肢の筋力
  - 身体を立直す力（バランス）
  
- ◆ 予想される状況
  - 取組に手間取る、片足をあげられない、ふらつく、
  - 両腕をあげて姿勢を保とうとする など

### ◆ 検査の観点

ポイント	チェック項目	
教示への対応行動	理解	教示に応じ動作が起こせる
	筋力	片足で立てる
	立直し	姿勢を保てる

### ◆ 評価表（チェック欄；該当箇所にレ点を記入 コメント欄；計測結果を記録）

項目	評価基準	チェック	コメント
理解	動作が起こせない		
下肢の筋力	立つことがわかり、努力するが立てない		
立直し	5秒未満、片足立ちを保てる		
	腕を上げて、5秒以上片足立ちを保てる *ふらついてもよい		
	腕を下げて、10秒以上片足立ちを保てる *ふらついてもよい		

### ◆ 指導のポイント

ホーススイング・ぶらんこなどの遊具運動、全身を使う球技などでバランス力を養いましょう。

検査年月日      年      月      日    氏名 \_\_\_\_\_

## No.4 片足立ち（開眼） 教示



- ◆ 準備するもの  
ストップウォッチ 1個

- ◆ 計測  
1回のみ実施、足が床に着くまでの時間を計ります。30秒以上の継続が確認できたら終了としてよいです。検査者は教示をしつつ計測し、結果を記録します。

- ◆ 教示の手順と内容（検査者は生徒に直面して立ち、実演しつつ説明をします。）

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから片足で立つ検査をします。
2	検査方法の説明 練習開始の指示	やり方を説明します。まず、腕を身体の横にたらし力を抜いて下さい。片足を持ち上げそのまま立って下さい。時間を計りますから、なるべく長く立って下さい。練習をします。左足を持ち上げて下さい。
3	検査開始	それでは検査を始めます。左足を持ち上げて下さい。用意、始め。（着地したら）はい。次は反対の右足を持ち上げます。用意、始め。（着地したら）はい。
4	検査終了	この検査はこれで終わりです。

※ 実演しながら教示を行うので、言葉の理解が難しい生徒にも実施できます。

- ◆ 所要時間  
5分

## No.5 片足立ち（閉眼）

- ◆ この検査からわかること
  - 理解力（左右や求められていることがわかる）
  - 下肢の筋力
  - 身体を立直す力（バランス）

- ◆ 予想される状況
  - 取組に手間取る、片足をあげられない、ふらつく、
  - 両腕をあげて姿勢を保とうとする など

### ◆ 検査の観点

ポイント	チェック項目	
教示への対応行動	理解	教示に応じ動作が起こせる
	筋力	片足で立てる
	立直し	姿勢を保てる

### ◆ 評価表（チェック欄；該当箇所にレ点を記入 コメント欄；計測結果を記録）

項目	評価基準	チェック	コメント
理解	動作が起こせない		
下肢の筋力	立つことがわかり努力するが立てない		
立直し	5秒未満、片足立ちを保てる		
	腕を上げて、5秒以上片足立ちを保てる *ふらついてもよい		
	腕を下げて、10秒以上片足立ちを保てる *ふらついてもよい		

### ◆ 指導のポイント

ホーススイング・ぶらんこなどの遊具運動、全身を使う球技などでバランス力を養いましょう。

検査年月日      年      月      日    氏名 \_\_\_\_\_

## No.5 片足立ち（閉眼）教示



- ◆ 準備するもの  
ストップウォッチ 1個
- ◆ 計測  
1回のみ実施、足が床に着くまでの時間を計ります。30秒以上の継続が確認できたら終了してよいです。  
検査者は教示をしつつ計測し、結果を記録します。

- ◆ 教示の手順と内容（検査者は生徒に直面して立ち、実演しつつ説明をします。）

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから目を閉じて片足で立つ検査をします。
2	検査方法の説明 練習開始の指示	やり方を説明します。まず、腕を身体の横にたらし力を抜いて下さい。目を閉じて片足を持ち上げそのまま立っていて下さい。時間を計りますから、なるべく長く立っていて下さい。 練習をします。目を閉じて左足を持ち上げて下さい。
3	検査開始	それでは検査を始めます。目を閉じて左足を持ち上げて下さい。用意、始め。（着地したら）はい。次は反対です。 目を閉じて右足を持ち上げて下さい。用意、始め。（着地したら）はい。
4	検査終了	この検査はこれで終わりです。

※ 実演しながら教示を行うので、言葉の理解が難しい生徒にも実施できます。

- ◆ 所要時間  
5分

## No.6 平均台歩行

- ◆ この検査からわかること
  - 理解力（左右や求められていることがわかる）
  - 運動能力（歩行）
  - 身体を立直す力（バランス）
  
- ◆ 予想される状況
  - 平均台に上れない、台から落ちる
  - 両腕・両脚を動かして姿勢を保とうとしてふらつく など

### ◆ 検査の観点

ポイント	チェック項目	
教示への対応行動	理解	教示に応じ動作が起こせる
	運動能力	台に昇り降りできる、台上を歩行できる
	立直し	台上で姿勢を保てる

### ◆ 評価表（チェック欄；該当箇所にレ点を記入 コメント欄；計測結果を記録）

項目	評価基準	チェック	コメント
理解	動作が起こせない		
運動能力	台に上り歩行できる、台から降りられる		
立直し	台上で姿勢を崩しながらも立てるが歩行が難しい		
	姿勢を大きく崩さず2往復、歩行できる *ふらついていてもよい、×印を踏む		

### ◆ 指導のポイント

ホーススイング・ぶらんこ・バランスボードなどの遊具運動、全身を使う球技などで脚力やバランス力を養いましょう。

検査年月日      年      月      日    氏名 \_\_\_\_\_

## No.6 平均台歩行教示



- ◆ 準備するもの  
平均台（両端に大きく×印をつける）  
ストップウォッチ 1 個
- ◆ 計測  
平均台歩行開始時（×印から開始）より、台を降りずに 2 往復（×印で終了）した時間を測定します。

◆ 教示の手順と方法（検査者は生徒に直面して立ち、実演しつつ説明をします。）

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから平均台の上を歩く検査をします。
2	検査方法の紹介	やってみますから、見ていて下さい。×印から歩き始め、向こうの端の×印まで行ったらターンをして戻ります。戻ってきたらまた×印を踏んで、ターンをし、もう 1 度向こうの端まで歩き戻ってきます。2 往復します。必ず×印を踏んで下さい。
2	練習開始	練習をしてみましょう。
3	検査開始	それでは検査を始めます。「用意、始め。」の合図で歩き始め、2 往復して下さい。「用意、始め。」
4	検査終了	「はい。」（足が×印をふんだところで終了とします。） この検査はこれで終わりです。

※ 実演しながら教示を行うので、言葉の理解が難しい生徒にも実施できます。

- ◆ 所要時間  
5分





# 作 業 検 査

# No.7 タッピング

- ◆ この検査からわかること  
手指の巧緻性、手首の動き、課題理解、指示理解、持続、など
- ◆ 予想される状況  
ロッド（棒状のつまみ）を掴むことが難しい、  
ロッドを円滑に動かすことが難しい、など
- ◆ 検査の観点

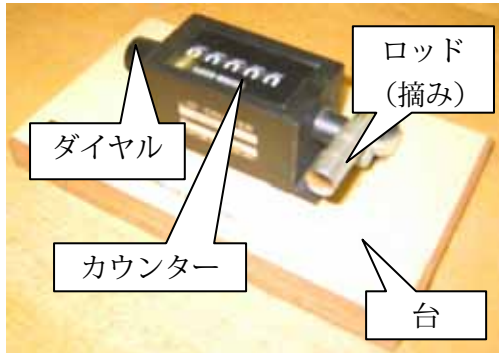
ポイント		チェック項目
ロッドの操作	掴み方	・指示どおり ・棒にぎり ・その他
	叩き方	・手首から先の動きで素早く叩ける ・腕全体を動かして叩く ・肩まで動く ・肘をついて叩く ・力のコントロールが難しい
	持ち方	・指先で軽くつまめる ・つまめるが力が入る
持続	遂行の様子	・最後まで一定 ・不定だが最後まで続ける ・途中中止 ・途中中止するが促しで再開
	持ち替え	・しない ・する
課題理解	教示への対応	・一斉教示で遂行可能 ・個別教示で遂行可能 ・練習で遂行可能 ・叩くことは可能 ・困難
指示理解	指示への対応	・言葉の指示に対応する ・指さし等をすると始める ・手をガイドすると始める ・周囲の様子を見て対応する ・「始め」が守れず始めてしまう、始めない ・「やめ」の前にやめてしまう、続けてやる
数理解	カウンターの数字の報告	・正しく報告 ・一桁の数字として読んで報告 ・書いて報告 ・困難

- ◆ 標準値 330回／1分

30 秒	回	メモ
1 分	回	


検査年月日 年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

## No.7 タッピング教示



- ◆ 準備するもの  
打叩度数計、ストップウォッチ  
※机の上に置き、座作業で行います。
- ◆ 計測方法  
1回目は30秒、2回目は1分を行います。  
2回目の結果を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからタッピングの検査を行います。
2	器具の説明	検査器具の説明をします。この金属の棒をロッドと言います。下の木の部分を台と言います。ロッドを動かすとカウンターの数字が動きます。
3	方法の説明	(一度に複数の人に教示する場合は、台を宙で持って実演します。)やり方を説明します。まず、左手で台を押さえます。ロッドの持ち方は、親指と中指でロッドを握ります。次に、人差し指をロッドの頭にのせます。肘をつけずに手首を使って、できるだけ速く、たくさん叩きます。 
4	練習開始の指示	練習をして下さい。 練習が終わったら、ダイヤルを回してカウンターの数字を0に戻して下さい。
5	開始の合図	この検査は2回行います。1回目は30秒、2回目は1分です。用意と言われたらロッドに手をそえて下さい。検査1回目(2回目)を始めます。用意、始め。
6	終了の合図と結果報告の指示	やめ。(強く言わない。) カウンターの数字を検査者に報告してください。

※ 左利きの方は、ロッドが左側にくるように置いて、左手でロッドを握ります。他は、右利きと同じです。

- ◆ 所要時間  
5分

## No.8 ペグ両手差し込み

- ◆ この検査からわかること  
両手同時動作、目と手の協応、視空間認知、練習効果、課題理解、指示理解 など
- ◆ 予想される状況  
両手を同時に操作することが難しい、位置や場所を的確に捉えることが難しい、位置や方向の理解が難しい、動作の理解が難しい など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
ペグの操作	摘み方	・指示どおり ・3本指で摘む ・その他
	両手同時動作	・同時に（素早く）動く ・多少のずれが見られる ・片手ずつ操作する
	目と手の協応	・穴にスムーズに差し込む ・穴を探りながら差し込む
	練習効果	・回を重ねると上達する ・変化は見られない
視空間認知	検査盤の向き	・見本と同じ ・見本と異なる
	開始位置	・教示どおり ・教示と異なる ・その他
	進行順	・教示どおり ・不規則な順序 ・法則のある誤り
課題理解	教示への対応	・一斉教示で遂行可能 ・個別教示で遂行可能 ・練習で遂行可能 ・ペグを操作することは可能 ・困難
指示理解	指示への対応	・言葉の指示に対応する ・指さしなどをすると始める ・手をガイドすると始める ・周囲の様子を見て対応する ・「始め」が守れず始めてしまう、始めない ・「やめ」の前に止めてしまう、続けてやる
数の理解	ペグの数の報告	・1本ずつ数える ・数唱はできるが指とずれる ・困難 ・他の数え方

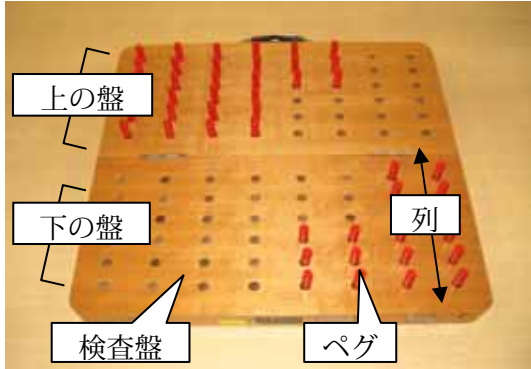
- ◆ 標準値 78本（15秒×3回の合計）

1回目	本
2回目	本
3回目	本
合計	本

メモ

検査年月日 年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

## No.8 ペグ両手差し込み教示



- ◆ 準備するもの  
MN検査盤、ストップウォッチ  
※机の上に置き、立ち作業で行います。

- ◆ 計測方法  
15秒を3回行います。  
3回の合計を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	器具の向き of 指示	(全てのペグが上の盤に差し込んでいる見本を示します。) 見本(指さしながら)と同じになるように置いて下さい。
2	検査名の紹介	これからペグの両手差し込み検査を行います。
3	器具の説明	検査器具の説明をします。この赤と白の棒をペグと言います。 木の部分を検査盤と言います。
4	方法の説明	それでは、やり方を説明します。 上の盤の一番下の一番右のペグを右手の親指と人差し指で摘みます。次にその隣のペグを左手で同じように摘みます。そして、下の盤の同じ位置に差し込みます。 できるだけ速くやります。(差し込んだペグが)一番上までいったら、次の列の一番下に戻って下さい。 (3, 4列目を差し込んでいる途中で、ペグを意図的に落として見せます。落としてから、次のように言います。) 落としても拾わないで続けて下さい。(実演は24本行います。)
5	練習開始の指示	この検査は立って行う検査です。立って下さい。いすを後ろに押して下さい。それでは、練習をして下さい。ペグを全部下に移して下さい。
6	開始の合図	検査を始めます。この検査は、15秒間を3回行います。立って下さい。いすを後ろに押して下さい。用意と言われたら両手でペグを摘んで準備をして下さい。用意、始め。
7	終了の合図と結果報告の指示	やめ。(強く言わない。) 何本移したか報告して下さい。

※ 左利き用の教示は、開始位置が左下になります。他は右利きと同じです。

- ◆ 所要時間  
10分

## No.9 ペグ片手差し替え

- ◆ この検査からわかること  
手指の巧緻性、視空間認知、練習効果、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
手指の操作にぎこちなさがある、位置や方向の理解が難しい、  
動作の理解が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
ペグの操作	摘み方	・教示どおり    ・その他
	回し方	・教示どおり    ・後ろ回し            ・困難 ・片手だか何回かに分けて回す    ・机の上に置いて回す ・おなか（衣服）に付けて回す    ・両手を使って回す
	練習効果	・回を重ねると上達する    ・変化は見られない
視空間認知	検査盤の向き	・見本と同じ            ・見本と異なる
	開始位置	・教示どおり            ・教示と異なる            ・その他
	進行順	・教示どおり            ・不規則な順序 ・法則のある誤り
課題理解	教示への対応	・一斉教示で遂行可能            ・個別教示で遂行可能 ・練習で遂行可能            ・ペグを操作することは可能 ・困難
指示理解	指示への対応	・言葉の指示に対応する            ・指さし等をすると始める ・手をガイドすると始める    ・周囲の様子を見て対応する ・「始め」が守れず始めてしまう、始めない ・「やめ」の前に止めてしまう、続けてやる
数の理解	ペグの数の報告	・1本ずつ数える            ・数唱はできるが指とずれる ・困難 ・他の数え方

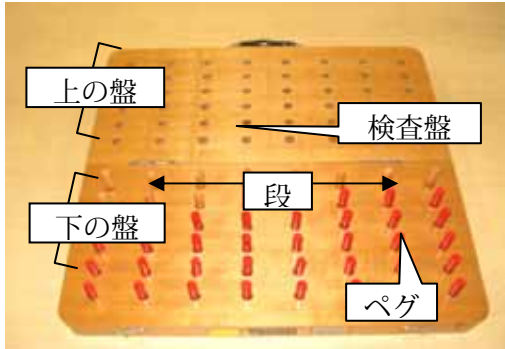
- ◆ 標準値      88本（30秒×3回の合計）

1回目	本
2回目	本
3回目	本
合計	本

メモ
----

検査年月日      年      月      日 氏名 \_\_\_\_\_

## No.9 ペグ片手差し替え教示



- ◆ 準備するもの  
MN検査盤、ストップウォッチ  
※机の上に置き、立ち作業で行います。
- ◆ 計測方法  
30秒を3回行います。  
3回の合計を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	器具の向きの指示	(全てのペグが下の盤に差し込んでいる見本を示します。) 見本(指さしながら)と同じになるように置いて下さい。
2	検査名の紹介	これからペグ片手差し替え検査を行います。 この検査は片手だけを使ってやります。
3	器具の説明	(両手差し込み検査を実施した場合は省略可。)検査器具の説明をします。この赤と白の棒をペグと言います。木の部分を検査盤と言います。
4	方法の説明	それでは、やり方を説明します。 下の盤の一番上の一番左のペグを、右手の親指と人差し指で摘んで、中指を白い部分にかけて前回しをします。赤いペグを白くします。もう一度行います。一段目が終了したら、次の段の一番左のペグから差し替えます。(2段目途中まで実演します。)
5	練習開始の指示	この検査は立ってやる検査です。立って下さい。いすを後ろに押して下さい。それでは、練習をして下さい。ペグを全部白にして下さい。
6	開始の合図	検査を始めます。この検査は、30秒間を3回行います。立って下さい。いすを後ろに押して下さい。用意と言われたらペグを摘んで準備をして下さい。用意、始め。
7	終了の合図と結果報告の指示	やめ。(強く言わない。) 何本差し替えたか報告して下さい。

※ 左利き用の教示は、左手を使い、下の盤の右上のペグから左方向に順に差し替えます。

- ◆ 所要時間  
15分

# No.10 ピン・ワッシャ組み合わせ

- ◆ この検査からわかること  
手指の巧緻性、両手動作、視空間認知、目と手の協応、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
指先の操作がぎこちない、両手同時に別々の操作をすることが難しい、位置や方向の理解が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
手指の操作	ピンの摘み方	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・指先で摘む</li> <li style="width: 50%;">・指の腹で摘む</li> <li style="width: 50%;">・スムーズに摘む</li> <li style="width: 50%;">・周りのピンを倒しながら摘む</li> <li style="width: 50%;">・ピンの落下が多い</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> </ul>
	ワッシャの摘み方	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ピンと同時に摘む</li> <li style="width: 50%;">・片手ずつ操作する</li> <li style="width: 50%;">・1枚ずつ摘む</li> <li style="width: 50%;">・複数枚をまとめて摘む</li> </ul>
	練習効果	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・回を重ねると上達する</li> <li style="width: 50%;">・変化は見られない</li> </ul>
視空間認知	組み合わせ方	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・スムーズに組み合わせる</li> <li style="width: 50%;">・ピン・ワッシャを落とすことがある</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> </ul>
	開始位置	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・教示どおり</li> <li style="width: 33%;">・教示と異なる</li> <li style="width: 33%;">・その他</li> </ul>
	進行順	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・教示どおり</li> <li style="width: 33%;">・不規則な順序</li> <li style="width: 33%;">・法則のある誤り</li> </ul>
課題理解	教示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・一度の教示で遂行可能</li> <li style="width: 50%;">・再教示で遂行可能</li> <li style="width: 50%;">・練習で遂行可能</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> </ul>
指示理解	指示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・言葉の指示に対応する</li> <li style="width: 50%;">・指さし等をすると始める</li> <li style="width: 50%;">・手をガイドすると始める</li> <li style="width: 50%;">・周囲の様子を見て対応する</li> <li style="width: 50%;">・「始め」が守れず始めてしまう、始めない</li> <li style="width: 50%;">・「やめ」の前に止めてしまう、続けてやる</li> </ul>
数の理解	組み合わせた数の報告	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・1本ずつ数える</li> <li style="width: 50%;">・数唱はできるが指とずれる</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> <li style="width: 50%;">・他の数え方</li> </ul>

◆ 標準値      27個（1分30秒間）

合計	本
ピン落下	本
ワッシャ落下	本

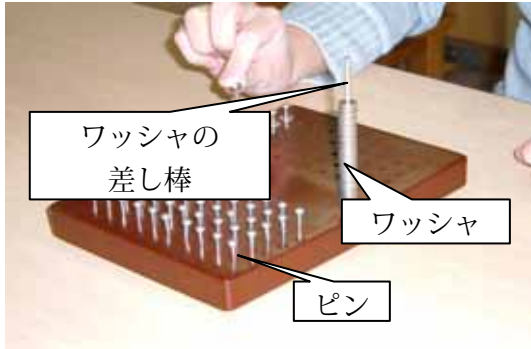
メモ

※合計は、落下した本数を差し引いた数を算出してください。

検査年月日      年      月      日      氏名



## No.10 ピン・ワッシャ組み合わせ教示



- ◆ 準備するもの  
指先用検査盤、ストップウォッチ  
※机の上に置き、座作業で行います。
- ◆ 計測方法  
1分30秒間に、組み合わせた数を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	(上の段に全てのピンを差し込み、向かって左側にワッシャの差し棒が立っている状態から始めます。)これからピン・ワッシャ組み合わせ検査を行います。この検査は両手を使って行います。
2	器具の説明	検査器具の説明をします。これ(指さしながら)をピンと言います。これ(指さしながら)をワッシャと言います。下の部分を検査盤と言います。
3	方法の説明	それでは、やり方を説明します。上の盤の一番下の一番右のピンを右手の親指と人差し指で摘みます。次に左手でワッシャの差し棒から1枚取り、ピンとワッシャを組み合わせます。ピンとワッシャを組み合わせた物は、右手の親指と人差し指で摘みます。組み合わせた物は、下の盤の同じ位置に差し込みます。もう一度やりますので見て下さい、ピンとワッシャを同時に摘んで組み合わせます。ワッシャを2枚取ってしまったら、1枚は下に置いて、組み合わせます。一番上までいったら、次の列の一番下に戻って下さい。(教示は2組)
4	練習開始の指示	それでは、続きから練習をして下さい。練習は、2列組み合わせて下さい。
5	開始の合図	検査を始めます。この検査は、1分30秒を1回行います。用意と言われたら準備をして下さい。用意、始め。
6	終了の合図と結果報告の指示	やめ。(強く言わない。)検査で組み合わせた数を報告して下さい。

※ 左利きの場合は、ワッシャの差し棒が向かって右側にくるようにセットして下さい。上の盤の左下のピンから開始します。左手でピン、右手でワッシャを摘みます。

- ◆ 所要時間  
10分

# No.11 ピン・ワッシャ分解

- ◆ この検査からわかること  
手指の巧緻性、両手動作、視空間認知、目と手の協応、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
指先の操作がぎこちない、両手同時に別々の操作をすることが難しい、位置や方向の理解が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
手指の操作	ピンの摘み方	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・指先で摘む</li> <li style="width: 50%;">・指の腹で摘む</li> <li style="width: 50%;">・スムーズに摘む</li> <li style="width: 50%;">・周りのピンを倒しながら摘む</li> <li style="width: 50%;">・ピンの落下が多い</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> </ul>
	ワッシャの摘み方	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・指示どおりに滑らせて摘む</li> <li style="width: 50%;">・指先で摘む</li> <li style="width: 50%;">・指の腹で摘む</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> </ul>
	練習効果	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・回を重ねると上達する</li> <li style="width: 50%;">・変化は見られない</li> </ul>
視空間認知	分解後の動作	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ピンとワッシャを同時に戻す</li> <li style="width: 50%;">・多少ずれる</li> <li style="width: 50%;">・片方ずつ操作する</li> </ul>
	開始位置	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・教示どおり</li> <li style="width: 33%;">・教示と異なる</li> <li style="width: 33%;">・その他</li> </ul>
	進行順	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・指示どおり</li> <li style="width: 33%;">・不規則な順序</li> <li style="width: 33%;">・法則のある誤り</li> </ul>
課題理解	教示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・一度の教示で遂行可能</li> <li style="width: 50%;">・再教示で遂行可能</li> <li style="width: 50%;">・練習で遂行可能</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> </ul>
指示理解	指示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・言葉の指示に対応する</li> <li style="width: 50%;">・指さし等をすると始める</li> <li style="width: 50%;">・手をガイドすると始める</li> <li style="width: 50%;">・周囲の様子を見て対応する</li> <li style="width: 50%;">・「始め」が守れず始めてしまう、始めない</li> <li style="width: 50%;">・「やめ」の前に止めてしまう、続けてやる</li> </ul>
数の理解	組み合わせた数の報告	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・1本ずつ数える</li> <li style="width: 50%;">・数唱はできるが指とずれる</li> <li style="width: 50%;">・困難</li> <li style="width: 50%;">・他の数え方</li> </ul>

◆ 標準値 28個（1分間）

合計	本	メモ
ピン落下	本	
ワッシャ落下	本	

※合計は、落下した本数を差し引いた数を算出して下さい。

検査年月日 年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

# No.11 ピン・ワッシャ分解教示



- ◆ 準備するもの  
指先用検査盤、ストップウォッチ  
※机上に置き、座作業で行います。
- ◆ 計測方法  
1 分間に、分解した数を記録します。

## ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	(上の段に全てのピンを差し込み、向かって左側にワッシャの差し棒が立っている状態から始めます。) これからピン・ワッシャ分解検査を行います。 この検査は両手を使ってやります。
2	器具の説明	(ピン・ワッシャ組み合わせ検査を実施した場合は省略可。) 検査器具の説明をします。これ(指さしながら)をピンと言います。これ(指さしながら)をワッシャと言います。下の部分を検査盤と言います。
3	方法の説明	それでは、やり方を説明します。下の盤の一番下の一番右のピンを右手の親指と人差し指で摘みます。次に左手の人差し指を使ってワッシャを台の端まで滑らせて、摘みます。そして、ピンを上盤の同じ位置に、ワッシャを差し棒に、同時に戻します。もう一度やりますので見て下さい。一番上まで行ったら、次の列の一番下に戻して下さい。(教示は2個)
4	練習開始の指示	それでは、続きから練習をして下さい。練習は、2列分解して下さい。
5	開始の合図	検査を始めます。この検査は、1分を1回行います。 用意と言ったら準備をして下さい。用意、始め。
6	終了の合図と 結果報告の指示	やめ。(強く言わない。) 検査で分解した数を報告して下さい。

※ 左利きの場合は、ワッシャの差し棒が向かって右側にくるようにセットして下さい。  
下の盤の左下のピンから開始します。左手でピンを摘み、右手でワッシャを摘みます。

- ◆ 所要時間  
10分

# No.12 ボール投げ

- ◆ この検査からわかること  
身体の使い方、運動能力、練習効果、課題理解、など
- ◆ 予想される状況  
ボールを飛ばすことが難しい、身体が硬く身体を回すことが難しい、  
ボールを持つことに抵抗がある、方向を意識することが難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
投げ方	片手投げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手投げ</li> <li>・下手投げ</li> <li>・利き手（右・左）</li> <li>・反利き手（右・左）</li> </ul>
	両手投げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放り投げる</li> <li>・叩きつける</li> </ul>
	投げない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持つと落とす</li> <li>・手渡す</li> <li>・持ったままている</li> </ul>
身体の使い方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の各部位を協調させて投げた</li> <li>・身体の使い方が不十分であった (身体のひねり 可能・困難) (手と足の使い方 可能・困難)</li> <li>・ボールに力をうまく伝えることができた</li> </ul>
練習効果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第に距離が伸びる</li> <li>・ほとんど変わらない</li> <li>・次第に距離が短くなる</li> </ul>
課題理解	教示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度の教示で遂行可能</li> <li>・再教示で遂行可能</li> <li>・練習で遂行可能</li> <li>・困難</li> </ul>

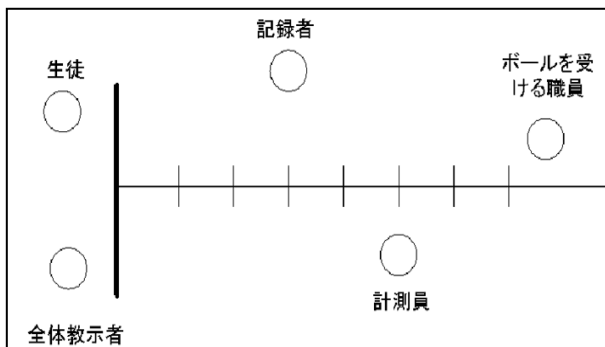
- ◆ 標準値 男性 26m、女性 15m

1回目	m
2回目	m
3回目	m
4回目	m

メモ
----

検査年月日 年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

## No.12 ボール投げ教示



◆ 準備するもの  
 ハンドボール（ゴム2号球）  
 投てきラインを引き、そこを起点として直線で1m毎に印を付けます。

◆ 計測方法  
 4回のうち、一番遠くの記録を取ります。（10cm単位まで）

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからボール投げを行います。 この検査は片手で行います。
2	方法の説明	（投てきラインの白線を指さしながら）この白線の前に左足を置き、右手にボールを持ち、〇〇先生（ボールを受ける職員）の方へ、このように上から投げます。 （実際に投げます。） 遠くへ投げるようにして下さい。このとき足が白線から出ないように気を付けて下さい。助走して投げて構いません。 もう一度投げますので見て下さい。
3	開始の合図	この検査は4回行います。 4回の中で一番遠くの記録を取ります。 では順番に行います。

- ※ 利き手ではない手で投げようとした場合そのまま投げる様子を見て下さい。また、利き手でも実施しその様子を見て下さい。
- ※ 援助する場合は、「もっと上の方向へ」などの言葉かけや、足の位置や開き方などをガイドし、様子を見ます。
- ※ 投てきラインからオーバー又は手前から投げたら、実際に投げた距離を記録とします。

◆ 所要時間  
 5分

# No.13 握力

- ◆ この検査からわかること  
身体の使い方、筋力、課題理解、など
- ◆ 予想される状況  
力のコントロールが難しい、筋力が十分でない、  
道具の使い方の理解が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
握力計の使い方		・指示どおり      ・自己流
握り方		・片手              ・両手
力の入れ加減		・全力      ・握る程度      ・困難
課題理解	教示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度の教示で遂行可能</li> <li>・再教示で遂行可能</li> <li>・手などをガイドして遂行可能</li> <li>・困難</li> </ul>

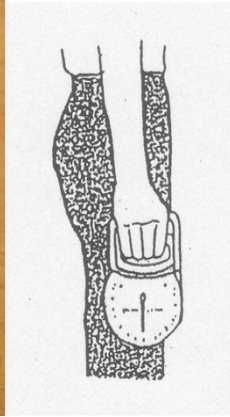
- ◆ 標準値      男性 41kg、女性 26kg

右	kg
左	kg

メモ

検査年月日      年      月      日 氏名 \_\_\_\_\_

## No.13 握力教示



- ◆ 準備するもの  
握力計
- ◆ 計測方法  
左右各1回行います。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから握力測定を行います。
2	力の入れ具合の確認	始めに、握手をしましょう。私の手を強く握って下さい。 (力の入れ具合を確認し、弱く握る場合は、更に強く握るよう言葉かけをして下さい。)
3	方法の説明	(握力計を持って教示します。) 測定の仕方を説明します。 握力計の針がある方を外側にして持ちます。 次に、両足をこのように肩幅くらいに開いて立ちます。 肘はまっすぐ伸ばします。 次に、握力計が身体や服に触れないようにし、背筋を伸ばし、力いっぱい握ります。 終わったら、握力計の目盛りを読んでもらいます。
4	開始の合図	この検査は、右・左それぞれ1回ずつ行います。 それでは順番に始めます。 (実施後) 目盛りを読んで下さい。

※ 検査を始める前に、握力計を人さし指の第2関節がほぼ直角になるように、握り幅を調節します。

- ◆ 所要時間 (目安)  
5分

## No.14 部品分類（10種）

- ◆ この検査からわかること  
形状・大小判別、位置の記憶、注意持続、継続、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
形や大きさの区別が難しい、位置の理解が難しい、注意の持続が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
判別	方法	・瞬時に分類 ・見本と照合しながら分類 ・種類毎に分類
	理解の様子	・ボルトの分類に苦戦 ・大小の分類に苦戦 ・困難
位置の記憶		・可能 ・再教示で可能 ・困難
注意持続		・良好 ・時間の経過とともに精度が低下 ・困難
継続		・良好 ・時間の経過とともに意欲の低下 ・立ち作業が不安定 ・着席して取り組む
課題理解	教示への対応	・一度の教示で遂行可能 ・再教示で遂行可能 ・練習で遂行可能 ・困難
指示理解	トレイ並べ	・一度の言葉による指示で遂行可能 ・一度の言葉による指示と指さし等で遂行可能 ・分割した指示で遂行可能 ・困難
	大きさ、長さ太さの理解	・言葉による質問で正しく回答 ・再教示後の質問で正しく回答 ・困難
	ボルト置き	・指示どおりに対応 ・指定したトレイに置くことが困難
終了の報告		・可能 ・促しが必要 ・困難

- ◆ 標準値 4分

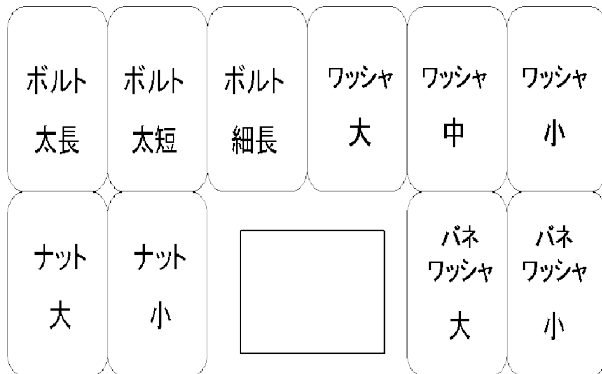
作業時間	分		秒			
ボルト太長	ボルト太短	ボルト細長	ワッシャ大	ワッシャ中	ワッシャ小	
ナット大	ナット小			バネワッシャ大	バネワッシャ小	

メモ

検査年月日 年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_



## No.14 部品分類（10種）教示



- ◆ 準備するもの  
部品（見本各1と練習各5はトレイ）  
（本番各20は深型トレイ）  
トレイ10枚、深型トレイ1個  
ストップウォッチ  
※机の上に置き、立ち作業で行います。
- ◆ 計測方法  
所要時間とミス数を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから部品分類の検査を行います。
2	器具の説明	これをトレイと言います。何枚ありますか。 上の列に6枚、下の列に4枚並べて下さい。
3	方法の説明	（練習用のトレイにある3種類のボルトを提示しながら）これはボルトと言います。 太くて長いボルトはどれですか。（正否を確認後）そのボルトを上の一列の一番左のトレイに置いて下さい。 （以下、他のボルトと他の部品も同じように説明します。）
4	練習開始の指示	それでは、練習をはじめます。この検査は、立って行います。部品を全て分類したら、必ず「終わりました。」と報告して下さい。トレイに入っている部品を全部分類して下さい。
5	置き場所の確認	（見本を指さしながら）これから全部の部品を取ります。これらの部品を渡しますので、先ほどと同じところに部品を置いて下さい。
6	開始の合図	検査を始めます。立って下さい。ようい、はじめ。

- ※ トレイを数えることや並べることが難しい場合は、検査者が並べて下さい。
- ※ 各部品の名前を質問しても可です。
- ※ ボルトの分類が難しい場合は、8種分類（ボルトを1種類）に変更して下さい。
- ※ ワッシャ・ナット・バネワッシャの大小の分類が難しい場合には、4種分類（各部品1種類）にして下さい。
- ※ 練習でミスが生じた場合には、再教示をして下さい。
- ※ 置き場所を確認した際に、ミスがあった場合には、トレイに見本を置いて本番を実施して下さい。

- ◆ 所要時間  
40分

# No.15 ひも掛け

- ◆ この検査から分かること  
見通し、判断、手首の操作、練習効果、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
先を見通してスムーズに作業をすることが難しい、奥行きのあるものの判断が難しい  
手首の操作がぎこちない、導線を意識することが難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
見通し		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1, 2本先を見て見通しを持って遂行する</li> <li>・ 1本ずつ確認しながら遂行する</li> </ul>
判断		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スムーズに掛ける</li> <li>・ 白線をなぞりながら掛ける</li> <li>・ 1本ずつ試行錯誤しながら掛ける</li> <li>・ 白線と異なって掛けることがある      ・ 困難</li> </ul>
手首の操作		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手首を返して操作する      ・ 手首を返さずに操作する</li> </ul>
ひもの操作		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利き手でスムーズに操作する      ・ 両手で操作する</li> <li>・ ひもが邪魔になり掛けにくそう      ・ 困難</li> </ul>
課題理解	教示への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一度の教示で遂行可能      ・ 再教示で遂行可能</li> <li>・ 手などをガイドして遂行可能      ・ 困難</li> </ul>
	誤りへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 途中で気付いて掛け直す      ・ 終了後に気付いて掛け直す</li> <li>・ 指摘されて掛け直す      ・ 困難</li> </ul>
練習効果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 操作がスムーズになった      ・ ミスが少なくなった</li> <li>・ ミスの修正が速くなった      ・ 変化は見られない</li> </ul>
終了の報告		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可能      ・ 促しが必要      ・ 困難</li> </ul>

◆ 標準値      23 秒

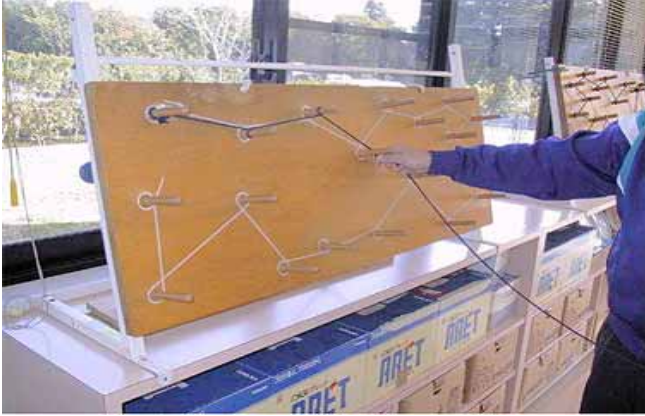
1 回目	分	秒	ミス	本
2 回目	分	秒	ミス	本

※ ひもを掛ける順番と掛ける向きを間違えた場合は、ミスとして扱います。

メモ

検査年月日      年      月      日      氏名

## No.15 ひも掛け教示



- ◆ 準備するもの  
ひも掛け検査盤  
ストップウォッチ
- ◆ 計測方法  
2回実施し、所要時間とミスの数を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからひも掛け検査を行います。
2	方法の説明	(検査盤の脇に足を肩幅くらいに広げ、ひもを右手で持ち、垂れ下がるひもを左手で軽く持って実演して下さい。) 始めに私が見本を見せます。ひもは右手で持ちます。このように白線と同じように掛けて下さい。 (途中で、かけ間違いの見本を示して、掛け直して下さい。) 最後まで掛けたら「終わりました。」と報告して下さい。
3	練習開始の指示	それでは、練習を始めます。 (必要に応じて、再教示等をして下さい。)
4	開始の合図	この検査は、2回行います。用意と言ったら、ひもを持って下さい。最後まで掛けたら、終わりましたと報告して下さい。検査を始めます。用意、始め。 (最後の棒に掛け終わったら、ストップウォッチを止めます。) 2回目を始めます。用意、始め。

※ 左利きの場合は、左利き用の検査盤を使用します。

- ◆ 所要時間  
5分

# No.16 釘打ち

- ◆ この検査からわかること  
道具の操作、目と手の協応、筋力、巧緻性、判断、練習効果、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
道具の操作がぎこちない、目と手の協応動作が難しい、筋力が十分でない、力の入れ具合の理解が難しい など
- ◆ 検査の観点

ポイント		チェック項目
操作 道具 の	金槌の握り方	・指示どおり ・短く握る ・両手を使う
	効率	・スナップを利かせて叩く ・押しつけ打ち
	面の使い分け	・指示どおり使い分ける ・使い分けないことがある ・困難
力の入れ加減		・力強い ・叩く力が弱い
応 動 作	目と 手 の 協	仮打ち ・スムーズに印に釘を合わせる ・印に釘を合わせるがぎこちない ・印と釘がずれる
	釘への命中	・正確に叩く ・時々打ち損じる ・打ち損じが多い ・困難
巧緻性		・釘を持って叩く ・釘をスムーズに掴まない ・困難 ・錐穴があれば遂行可能
判 断	金槌の面	・面の違いを見て判断する ・面の違いを触って判断する ・不確実 ・困難 ・目印を付けると対応する
	打ち込んだ釘	・触って確認し正確に仕上げる ・触って確認するが不正確 ・触らない
練習効果		・次第に上達 ・変化が見られない ・次第に効率や正確さが低下する
課題理解		・一度の教示で遂行可能 ・再教示で遂行可能 ・手をガイドして遂行可能 ・困難
終了の報告		・可能 ・促しが必要 ・困難

- ◆ 標準値      ありません。

所要時間	分	秒	成功本数	本
------	---	---	------	---

※きりあな錐穴の有無 (あり・なし)

メモ

検査年月日      年      月      日      氏名

# No.16 釘打ち教示



- ◆ 準備するもの  
 角材(45mm×36mm×500mm)  
 赤い印を10、青い印を5箇所付けます。  
 錐穴有り(印に穴が開いている)の角材と  
 錐穴なしの角材の2種類を用意します。  
 釘(38mm)、金槌(225g)、ストップウォッチ
- ◆ 計測方法  
 所要時間、打込み確認、面の使い分け、質を  
 記録します。

## ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから釘打ちの検査を行います。
2	器具の説明	(金槌を渡します。)この道具の名前はわかりますか。 (金槌の面を指さして)金槌の面は二つあります。こちらが膨らんでいる面はこちらが平らな面です。この二つの面を使い分けて釘打ちをします。平らな面を指さして下さい。
3	方法の説明	(見本を示します。)打ち方の説明をします。この検査は立って行います。利き手と反対の足を前に、足を前後に開いた姿勢を取ります。釘を左手で持ち、印に釘を立てます。金槌の平らな面を下にして、ガムテープとガムテープの間を持ちます。そして、軽く釘の頭を打ちます。これを仮打ちと言います。 釘が動かなくなったら、左手で離れた場所をしっかりと押さえます。金槌を何度か強く打ち付けます。残りが2mm程度になったら金槌の膨らんでいる面を下にして打ちます。釘の頭が木の面と水平になるまで打ち込みます。打ち込み具合を指で触って確認します。もう一度やってみます。 (2回目の教示では、打ち込み不足の悪い例を提示します。生徒に確かめさせた後に、打ち込み直して終了します。)
4	練習開始の指示	練習を始めます。青い印が右側に来るように角材を置いて下さい。練習は5本行います。(適宜再教示をして下さい。)
5	開始の合図	検査を始めます。赤い印が右側に来るように角材を置いて下さい。検査は10本行います。制限時間は10分です。終わったら、終わりましたと報告して下さい。用意、始め。

※ 左利きの人は、角材の向き、持ち手、足の位置が反対になります。

- ◆ 所要時間  
25分

# No.17 釘抜き

- ◆ この検査からわかること  
道具の操作、目と手の協応、練習効果、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
道具の操作がぎこちない、目と手の協応動作が難しい、力を入れ具合の調整が難しい、など

## ◆ 検査の観点

ポイント	チェック項目
角材の押さえ方	・力強い      ・援助が必要      ・困難
力を入れ加減	・力強い      ・援助が必要      ・困難
釘の頭に入れる動作	・スムーズ      ・練習で遂行可能      ・援助が必要      ・困難
課題理解	・一度の教示で遂行可能      ・再教示で遂行可能 ・手をガイドして遂行可能      ・困難
練習効果	・次第に上達      ・変化が見られない

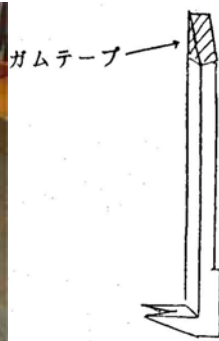
- ◆ 標準値      ありません。

所要時間	分	秒
------	---	---

メモ

検査年月日      年      月      日 氏名 \_\_\_\_\_

## No.17 釘抜き教示



- ◆ 準備するもの  
角材(45mm×36mm×500mm)  
頭を5mm程度残して  
打ち込んだ釘(38mm)を7本  
釘入れ(箱)  
ストップウォッチ
- ◆ 計測方法  
所要時間を計測します。

### ◆ 教示の手順の内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これから釘抜きの検査を行います。
2	方法の説明	右手で釘抜きのガムテープの近くを持ちます。左手でこのように角材を押さえます。 次に釘抜きの先を釘の頭の近くにあてます。釘抜きの先を釘の頭に掛けます。釘を引き抜きます。抜いた釘はこの箱の中に入れます。
3	練習開始の指示	それでは練習を始めます。練習は2本抜きます。終わったら、終わりましたと報告して下さい。立って下さい。用意と言ったら釘抜きを持って下さい。 (適宜再教示をして下さい。)
4	開始の合図	この検査は、5本抜きます。終わったら、終わりましたと報告して下さい。立って下さい。検査を始めます。 用意、始め。

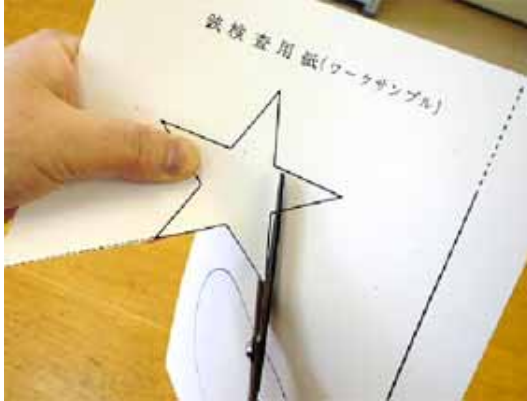
※ 左利きの場合は、持ち手と押さえる手が反対になります。

- ◆ 所要時間  
10分





# NO.18 はさみ教示



- ◆ 準備するもの  
はさみ、検査用紙  
台紙、完成見本  
テープカッター、鉛筆  
ストップウォッチ
- ◆ 計測方法  
所要時間と質を記録します。

## ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからはさみの検査を行います。
2	方法の説明	切り方の説明をします。はさみで切るときには、線の上を切って下さい。見本を見て下さい。両側に黒い線が分かれています。(完成見本を提示します。)
3	練習開始の指示	それでは練習を始めます。 練習では直線を切って下さい。終わったら、終わりましたと報告して下さい。 (適宜、再教示をして下さい。)
4	開始の合図	では丸型から検査を始めます。用意、始め。 (複数人が一斉に実施する場合は、全員が終了するのを待ちます。) 次は星型です。用意、始め。
5	台紙への貼り付け	見本と同じように、検査用紙を貼って下さい。 名前を書いてください。 (遂行が難しい場合や時間がない場合は、省略可です。)

- ※ 左利きの場合は、左利き用のはさみ・検査用紙を使用します。
- ※ はさみを使用する手が不明な場合は、机にはさみを置いて本人に持たせて下さい。
- ※ 一旦切り終えてから自ら更に修正をすることもあるので、本人の終了の報告を待って時間を計測して下さい。

- ◆ 所要時間  
15分

# No.19 ボールペン分解

- ◆ この検査からわかること  
手指の巧緻性、持続性、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
指先を使った操作が苦手、作業の取り組みに波がある、手順の理解が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント	チェック項目
尾栓のゆるめ方	・指先を使う    ・手首まで動く    ・困難
持続性	・よそ見や手休めなく一定ペース（判定A） ・多少のよそ見や手休めはあるが、ほぼ一定ペース（判定B） ・よそ見や手休めは多いが、作業持続に言葉かけ不要（判定C） ・取りかかりが悪い、続かない、何らかの働きかけが必要（判定D）
ボールペンを持つ手	・利き手                    ・非利き手（教示どおり）
作業手順	・教示どおりの順に遂行    ・手順は一定ではない ・自己流
工程数	・全工程    ・2工程    ・1工程（キャップ外し）
教示への対応	・一度の教示で遂行可能    ・再教示で遂行可能 ・練習で遂行可能            ・困難

- ◆ 標準値        4分30秒（50本）

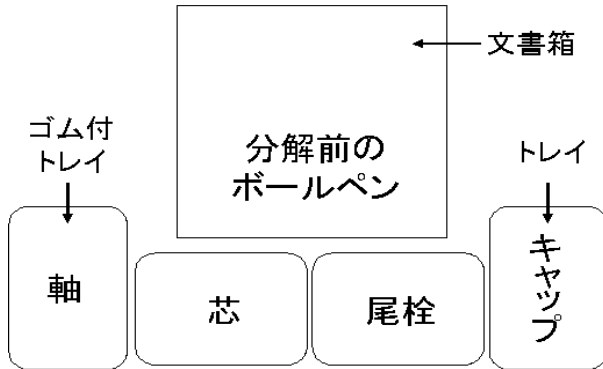
50本分解の所要時間        分        秒    持続性    A・B・C・D

10分間の分解本数        本    持続性    A・B・C・D

メモ

検査年月日        年        月        日    氏名

# No.19 ボールペン分解教示



- ◆ 準備するもの  
 ボールペン（練習 5 本、検査 50 本）  
 ※キャップが上向きになるように揃えておきます。  
 トレイ 4 枚（図のように配置する）  
 ストップウォッチ
- ◆ 計測方法  
 所要時間と持続性を記録します。

## ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからボールペンの分解検査を行います。
2	方法の説明	（教示は 1 本行います。） 始めに左手で軸を持ちます。右手でキャップを外します。外したキャップは一番右側のトレイに置きます。 次に、手首を返して、尾栓が右側になるようにし、尾栓を右手で回して外します。このとき（芯も抜けるときは）、左手の小指で芯を押さえると抜けません。外した尾栓を、キャップの隣のトレイに置きます。 次に芯を抜いて、尾栓の隣のトレイに置きます。 最後に、軸を一番左のトレイに置きます。
3	練習開始の指示	それでは練習を始めます。練習では 5 本分解して下さい。終わったら、終わりましたと報告して下さい。 （適宜、再教示をして下さい。）
4	開始の合図	それでは検査を始めます。検査では 50 本分解して下さい。制限時間は 10 分です。用意と言ったらボールペンをとって下さい。用意、始め。（制限時間になったら）やめ。

- ※ 左利きの場合は、トレイの配置が逆になり、右手で軸を持ちます。
- ※ 受検者に背を向けて、受検者と同じ向きになるようにして教示をして下さい。
- ※ 制限時間を超えた場合は、制限時間内の分解本数を記録します。

- ◆ 所要時間  
 20 分

## No.20 ボールペン組み立て

- ◆ この検査からわかること  
手指の巧緻性、持続性、目と手の協応動作、課題理解、指示理解、など
- ◆ 予想される状況  
指先を使った操作に苦戦する、作業の取り組みに波がある、目と手の協応動作が難しい  
手順の理解が難しい、など
- ◆ 検査の観点

ポイント	チェック項目
尾栓の締め方	・指先を使う    ・手首まで動く    ・困難
持続性	・よそ見や手休めなく一定ペース (判定A) ・多少のよそ見や手休めはあるが、ほぼ一定ペース (判定B) ・よそ見や手休めは多いが、作業持続に言葉かけ不要 (判定C) ・取りかかりが悪い、続かない、何らかの働きかけが必要 (判定D)
芯を入れる様子	・スムーズに入れる    ・入れ損ねることがある    ・困難
キャップをはめる様子	・スムーズに入れる    ・入れ損ねることがある    ・困難
ボールペンを持つ手	・利き手    ・非利き手 (教示どおり)
作業手順	・教示どおりの順に遂行    ・手順は一定ではない ・自己流
工程数	・全工程    ・2工程    ・1工程 (キャップはめ)
教示への対応	・一度の教示で遂行可能    ・再教示で遂行可能 ・練習で遂行可能    ・困難

- ◆ 標準値      7分(50本)

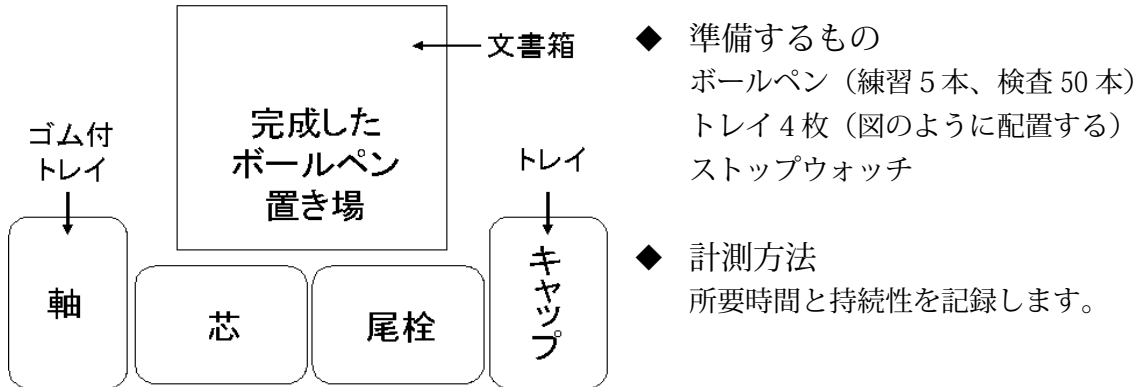
50本組み立ての所要時間      分      秒    持続性    A・B・C・D

15分間の組み立て本数      本    持続性    A・B・C・D

メモ

検査年月日      年      月      日    氏名

## No.20 ボールペン組み立て教示



◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからボールペンの組み立て検査を行います。
2	方法の説明	（教示は 1 本行います。） 始めに左手で軸を持ちます。次に右手で芯を持ちます。 芯を入れたら、右手で尾栓を取り、尾栓を締めます。 尾栓を締めたら（左手の）手首を返します。 右手でキャップを取ってキャップをはめます。 最後に前の箱の中に置きます。 このとき尾栓とキャップが緩くないようにして下さい。
3	練習開始の指示	それでは練習を始めます。練習では 5 本組み立てて下さい。 終わったら、終わりましたと報告して下さい。 （適宜、再教示をして下さい。）
4	開始の合図	それでは検査を始めます。検査では 50 本組み立てて下さい。 制限時間は 15 分です。用意と言ったら軸をとって下さい。用意、始め。（制限時間になったら）やめ。

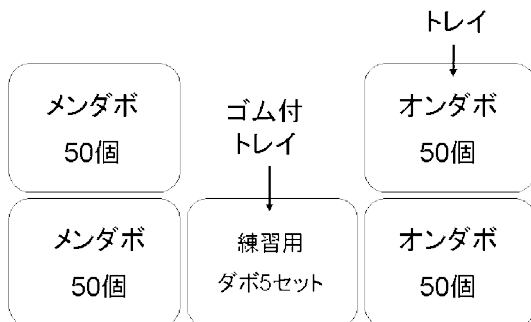
- ※ 左利きの場合は、トレイの配置が逆になり、右手で軸を持ちます。
- ※ 受検者に背を向けて、受検者と同じ向きになるようにして教示をして下さい。
- ※ 制限時間を超えた場合は、制限時間内の組立本数を記録します。

◆ 所要時間

25 分



## No.21 ダボ組み立て教示



### ◆ 準備するもの

ダボ 105 個

練習用は中央トレイに各 5 個、

検査用は左側のトレイ 2 枚に

メンダボ各 50 個、右側のトレイ

2 枚にオンダボ各 50 個

トレイ 5 枚 (図のように配置する)

ストップウォッチ

### ◆ 計測方法

所要時間と持続性を記録します。

### ◆ 教示の手順と内容

	項目	教示内容
1	検査名の紹介	これからダボの組み立て検査を行います。
2	名称の説明	これをメンダボと言います。 これをオンダボと言います。
3	方法の説明	(説明しながら実演します。) メンダボとオンダボを合わせてオンダボを右に回して、ゆるみなく締めます。
4	練習開始の指示	それでは練習を始めます。練習では 4 組組み立ててください。 終わったら「終わりました。」と報告してください。 (必要に応じて、再教示等をして下さい。)
5	開始の合図	それでは検査を始めます。検査では 100 組組み立ててください。 制限時間は 30 分です。 用意、始め。やめ。

※ 左利きの場合は、トレイの配置が逆になります。

※ 制限時間を超えた場合は、制限時間内の組み立ての個数を記録します。

### ◆ 所要時間

40 分





# 自己評価のためのアンケート

## 「自分のこと」アンケート

名前 ( ) 日付 ( )  
 担当 ( )

この質問は、あなたがどんなことをうまくやっているか、どんなところを自分でかえたいと思っているのかを知るためのものです。これはあなたにとって大切なことを見つけ出す一つの方法です。

<やり方> 次の文章を読んでください。読んだら、これは自分ができていることなのか、もっとうまくやりたいと思っていることなのかを考え、欄(\*)に○を書き込んでください。

質 問	*でき てい る	*うまく やりた い	だいじ 大事だ と 思 う
趣味やあそびのこと			
1. 自分が楽しめるすきなことがある			
2. 自分がすきなことをやっている			
3. 自分であそぶことができる			
4. 活発なあそびもするし、静かなあそびもする			
5. まわりには楽しいことやおもしろいことがある			
家族のこと			
6. 私は家族のひとりである			
7. 家族といっしょに十分な時間をすごしている			
8. 家族といっしょにする活動がある(あそびや仕事など)			
9. 家族に自分の考えや気持ちを話すことができる			
10. 兄弟や姉妹とうまくやっている			
11. 両親とうまくやっている			
12. 家族は自分のめんどろをみてくれていると思う			
学校のこと			
13. 毎日学校へ行っている			
14. 学校ではうまくできていると思う			
15. 自分のクラスがすきだ			
16. 学校をほとんど休んだことがない			
17. クラスの中で発言したり、質問できる			
18. 先生とうまくやっている			
19. クラスの友だちとうまくやっている			
20. 宿題をやる十分な時間がある			

21. 先生は自分のめんどろをみてくれていると思う			
友だちのこと			
22. 親しい友だちがいる			
23. 友だちをつくり、友だちでいられる			
24. 友だちといろんなことをやっている			
25. 友だちと十分な時間をすごしている			
26. 友だちグループのなかで話せる、うまくやれる			
27. 友だちは自分のめんどろをみてくれていると思う			
自分のこと			
28. 自分の「よい」ところ、うまくできることを知っている			
29. 自分ができていることを誇りに思っている(よいと思っている)			
30. 自分がうまくできると思う			
31. ものごとをはじめるために何かをしたり、言ったりできると思う			
32. 「自分で決めて」と言われたら決められる			
33. きつい仕事でもがんばれる			
34. 時間が長くかかることでも辛抱して待てる			
35. 将来なりたいものがある			
36. やりとげるまでがんばれる			
37. 1日のうちで、自分のやりたいことがきちんとある			
38. 私はよい習慣を持っている(歯みがき、風呂にはいるなど)			
39. その日の予定を突然変えられてもうまくできる			
40. 何かをする前に計画を立てる			
41. 困ったときに何をしたらよいか考えられる			
42. 自分がやっていることに注意を向けて仕事をやりとげられる			
43. 自分のからだをうまく動かすことができる			
44. 自分のことは自分でできる(服を着る、自分のおやつを取る)			
<p>1 から 27 の文章を読んで○を書きおわったら、もっとうまくやりたいと思うことは何かを  かんがえて、右欄「大事だと思おう」に二つ○をつけ、自分がどのように変わればよいのか、  変わるために大切だと思おうことを考えて書いて下さい。</p> <p>・</p> <p>・</p>			

『アセスメントハンドブックー評価の手引きー 資料編』の作成関係者

<助言者>

所 属	職 名	氏 名	備 考
県立保健福祉大学	助教授	長谷 龍太郎	平成18年度 作業療法士
北里大学	講 師	三戸 香代	平成18年度 作業療法士

<調査研究協力員>

所 属	職 名	氏 名	備 考
県立鶴見養護学校	教 諭	大島 萬生子	平成18年度
県立藤沢養護学校	総括教諭	村山 学	平成18年度
県立瀬谷養護学校	教 諭	松尾 真砂美	平成18年度
県立小田原養護学校	教 諭	興津 富成	平成18年度

<神奈川県立総合教育センター>

所 属	職 名	氏 名	備 考
進路支援課	課 長	杉本 由美子	平成18年度
進路支援課	研修指導主事	立花 裕治	平成18年度
進路支援課	教育心理相談員	石田 望	平成18年度 言語聴覚士

アセスメントハンドブックー評価の手引きー 資料編

発 行 平成 19 年 3 月

発行者 田邊 克彦

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0813 藤沢市亀井野 2547- 4

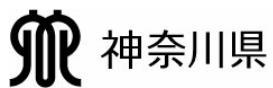
電話 (0466) 81- 1582 (進路支援課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>





古紙配合率100%再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター  
カリキュラムセンター（善行庁舎）  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1  
TEL (0466) 81-0188  
FAX (0466) 84-2040

教育相談センター（亀井野庁舎）  
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4  
TEL (0466) 81-8521  
FAX (0466) 83-4500

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>